

弘教寺



養蚕地域と弘教寺（ぐきょうじ）

弘教寺住職 中山英昭

昨年は十二月までNHKの大河ドラマで『青天を衝け』が放映され毎回楽しみにみさせていただきました。主人公の澁澤栄一の生家までは弘教寺から直線にして3キロ程です。

弘教寺のあるこの地域とは利根川を境に県がわかれますが、同じ農業圏、文化圏です。

三十年以上前になりますが、利根川の向い側中瀬（血洗島の隣村）で古い家が解体された家の下から壺が出て、中に時価6千万円になる小判が出てきて新聞マスコミをにぎわせました。今は静かな田舎の集落ですが、養蚕業の繁盛した地域であったことを示す証です。

弘教寺のあった世良田村（太田市世良田町）は昭和三十年代まで養蚕で栄え、八坂神社の祇園祭は関東の三大祇園と言われて、東武鉄道の電車が終夜運転されたといえます。祇園祭に出ている山車の中で繊細な彫り物で飾られた山車は、今作れば一億円するようなものがあるそうです。如何にこの地域が養蚕で豊かであったかが伺えます。

弘教寺の創立は安政七年（一八六〇年）澁澤栄一が二十歳の時です。養蚕業の盛んな時代とその地域にあることにも関係が有るよう

第51号

発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-1
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話 0270(74)0573



寺のQR

に思います。昔からの門徒さんは新潟県、富山県、滋賀県の出身者がほとんどです。滋賀の方は銘仙（和服）の販売、新潟・富山の方は醸造業、販売業等の商業に関係して、この地に来られた方が多いようです。そうした真宗門徒の要請が築地本願寺に出され、富山県の回向寺衆徒赤尾梵農師が来られ、弘教寺の元となる「築地本願寺布教所西岡寺」を起し、門徒の皆さんがみ教えを聞く聞法道場となりました。明治五年には寺号公称が許され『弘教寺』となります。

現在の弘教寺の本堂と庫裡は明治二十三年（一八八九年）旧世良田村の養蚕業をしていた方の家を移築して建てられたと前坊守の母からは、聞いております。イタリアに輸出した蚕卵を植え付けた蚕卵紙を不正輸出して倒産し、棟が上がった状態の建物を移築したようです。母が何回も聞かせてくれた蚕卵紙のことをこれまで理解できなかつたのですが、『青天を衝け』の中で蚕卵紙の場面をみて理解できました。養蚕業



中瀬より見た平塚河岸

た蚕卵を植え付けた蚕卵紙を不正輸出して倒産し、棟が上がった状態の建物を移築したようです。母が何回も聞かせてくれた蚕卵紙のことをこれまで理解できなかつたのですが、『青天を衝け』の中で蚕卵紙の場面をみて理解できました。養蚕業

と弘教寺がいろいろと関わっていることが興味深いことです。

群馬県の民謡として知られる『八木節音頭』について諸説有りますが、主な説は木崎音頭（太田市木崎町）が元と言われている。江戸時代に越後（新潟県）から身売りされ、宿場町木崎で飯盛女として働いた人々が唄ったものが元と言われています。他の説の一つに、音頭を作った堀込源太が若い時代に弘教寺から八百メートル程の中島という地に養蚕の手伝いに来て、当時唄われていた『赤椀節』を聞いてそれをもとに八木節ができたとも言われております。「陰」の旋律を「陽」に変え、樽をたたき、リズムカルに唄う八木節、国定忠治の唄に変えたことで明治時代、調子のよい音頭は大人気だったようです。古くからの民謡のようですが明治時代の新しい民謡です。

また、この地域は水運で栄えた県内でも重要な場所でした。当時利根川端の平塚の地は県内輸送の拠点でした。江戸から物資が運ばれ、江戸に物資を運ぶ拠点となっていました。足尾銅山（栃木県）から運ばれた銅の鉱石を平塚に運び、船で江戸に運んでいました。足尾から平塚の道は「銅（あかがね）街道」と呼ばれています。

旧世良田村にあった弘教寺は、そうした養蚕業の中心、輸送の拠点としてにぎわった地域だからこそ、流入して来る真宗門徒の要望に応じて創立されたものと思われれます。

駐車場を拡張整備しました

弘教寺には外来者用の駐車場が2カ所あります。一つは当寺の裏の道路を挟んだ北側にあり、もう一つは墓地の西側にあります。

報恩講や元旦会等でお参りいただいている方はすでにご存じのことと思います。が、北側にある駐車場の拡張整備が昨年の12月3日に終了しました。

今までこの駐車場は主要道路に面していなかったため、お帰りいただく際には裏の道路から主要道路に出るのを見通しも悪く不自由な面もありました。またイベント等で多くの方々にお越しいただいたときなどは駐車場付近が混雑し、近隣の方々にご迷惑をおかけすることもありました。

この度、この駐車場に隣接していた西側の土地を買収することができたため駐車場を拡張し、主要道路からの出入りができるよう整備されました。見通しも良くなり出入りもスムーズにできるようになりました。駐車場の両側にはそれぞれ7台分の駐車区画があり、一台分の駐車区画も広くゆったりとられています。また、中央のスペースも2列の縦列駐車ができるほどの余裕のある駐車場に生まれ変わりました。

多くの方々にお越しいただくような行事や



また、境内も広いので足が不自由な方や車椅子等をご利用の方、体調が思わしくない方などは気軽にお声がけいただき境内に駐車していただければと思います。
(栗原政廣)

イベント等があるときには駐車場係が出て誘導させていただきますが、できるだけ奥から順に駐車していただきますようお願いいたします。

なおこの駐車場の拡張整備に当たり40万円を護持会積立金から補助させていただきました。またこの紙面をお借りしご報告させていただきます。

もう一つの墓地の西側にある駐車場の、主要道路からの出入りが道幅の狭い道路であるため行事やイベント等があるときに当寺の役員が利用しております。

コロナ禍の仏婦新年会

1月21日は2年ぶりの婦人会新年会でした。去年はお勤めとご住職のご法話を聴聞するだけで散会となりました。今年は役員会で、コロナ禍でも可能な形の新年会をと知恵を絞りました。

フラダンスやコーラスの発表と会食をしないで、お勤めの後、会を盛り上げるために脳トレゲームと輪投げ遊びを実施しました。

当日、15名の参加者が真剣に足し算引き算に取り組む表情や、カタカナを一目で物の名前に読み替えて我先に答えたりする姿は、あたかも小学生のようでした。また、鳥の名前や世界遺産、花の名前の漢字などのクイズで固い頭をほぐしました。その後の輪投げは、ペット飲料獲得めざして活力と集中力アップになりました。福引きとビンゴゲームでは、住職の京都土産の念珠なども含め工夫された景品をそれぞれに引き当てて大盛況でした。

婦人会では、長期間家にこもって不健康にならないよう適切なコロナ感染対策の下で、できる形を模索しつつ活動を進めたいと話合っています。

今回は、脳トレと軽い運動で交流を深め、口々に楽しかったと喜び合えた充実した新年会となりました。
(坊守)



もちつき会に参加して

私にとつてもちつきは、幼い頃に両親と一緒におこなった数少ない貴重な記憶の一つです。

生前父からは、もちのつき方を始め色々なことを教えてもらったことが今でも懐かしく思い出されます。平成元年より住居を構えている境新栄区では、二十年程前からもちつき大会が開催されており、進んで参加させてもらっています。沢山地域の方との交流を深められた事など大変貴重な経験が出来ました。

地区のもちつき行事も新型コロナ禍で二年前から活動中止。そんなタイミングに合わせるかのように弘教寺から世話人のお話をいただき、今回もちつき会に参加のチャンスをつむむことができ、喜ばしく感じておりました。

当日、参加されたご住職を始め、多くの仏・仏婦の皆さまが童心に帰って頑張っていた姿、



楽しそうに杵を持ち、もちをつく子供たちの笑顔などとても良いですね！

現在、コロナ禍が収束に至らない状態ですが、古き良き時代を呼び起こす、年に一度の行事として今後も続けていきたいと思います。切望いたします。

(矢澤 隆)

木曜会報告（五）『七高僧の教え』

今回は、第四祖の道綽禪師です。禪師は中国南北朝時代末期の562年に北斉で生まれ、二十歳までの青年期に大飢饉や相次ぐ王朝の交代、苛酷な廃仏の嵐を経験されます。

隋の文帝が仏教再興すると、禪師は当時中国全域で研究されてきた重要な經典の一つ、「涅槃経」の研究・講説に努めます。しかし、それに満たされないものを感じ、慧瓊禪師に師事します。そうして禅の修行に励みますが、得たものは、煩惱を断ずることもさとり智慧を得ることもできない自分の無力さだけでした。慧瓊禪師の死後、曇鸞大師の功績を讃えた石壁の玄中寺を詣でられ、そこで曇鸞大師の碑文を見て、真に救われる道は阿弥陀如来の他力によるしかない確信され、浄土の教えに帰依されました。

禪師は著書の『安楽集』で、仏教全体を「聖道門」と「浄土門」との二つに分けた上で、聖道門によらず浄土門によるべきであると浄土門への帰依を勧められました。浄土門というのは、阿弥陀仏の本願力によって浄土に往生し、阿弥陀仏の浄土でさとりを得る教えです。

親鸞聖人は、「末法の世では浄土門だけがさとりに至る道である」と示された道綽禪師を「正信偈」で「道綽決聖道難証 唯明浄土可通入」と讃えられております。合掌

参考文献『はじめて学ぶ七高僧』黒田覚忍著

(橋本勝)

サークル紹介「パソコン教室」

弘教寺の本堂をお借りして開催しています。パソコン教室をご紹介します。

14年前のスタート時は20数名の方々が参加をされました。ご夫婦で参加されていて、お互いに教えたり教えられるの微笑ましい光景も見受けました。

まずはキーボードの文字配列、ローマ字入力、カナ漢字の変換方法をマスターしてワード、エクセルを習得しました。次にこれらのソフトを使って絵手紙や住所録の作成に挑戦しました。現在は探究心旺盛な約10名の方々が参加されて、昨年末には恒例の年賀状作りをしました。寅の絵柄を入れて各自個性豊かな年賀状を作りました。多分元日の朝、お手元に届けられた方もおられたかと思えます。今年の課題としてはパソコンとスマホの融合です。ガラケーは各通信会社とも廃止すると発表されていますので、時代に乗り遅れない様にパソコン教室の皆様共々に勉強して、パソコンとスマホをドッキングして双方向から使える様にしていきたいと考えています。毎月第2週、第4週の水曜日朝9時から約2時間、開催していますのでお気軽に足をこんで下さい。お待ちしております。



(西 正裕)



真悟の京都日記（15）

今回は、昨年十二月に行った和歌山自転車旅についてお話ししたいと思います。

サイクリングが趣味の私は、京都での学びを終えた後、京都から群馬まで自転車での帰郷を計画しています。その予行練習として、京都から和歌山までの片道約170キロを一泊二日で往復する旅行を企画しました。朝六時に出発。奈良県を縦断して、ゴールの和歌山港到着は午後の五時頃となりました。走行時間は、休憩を除いて約十時間です。走行中は初めて見る景色やルート、スピードを出すことに夢中で気づきませんでした。ホテルで落ち着いた時にはかなり汗をかいていて、身体全体が重い疲労感に包まれていました。大学入学直後に、「親鸞聖人の歩いた道を歩く」という約五十キロの道のりを十二時間かけて徒歩で行くイベントに参加しましたが、それが思い出されるような疲労感でありました。昔、親鸞聖人が布教伝道のために日々歩かれた道々はより長く険しいものだったことを考えると、より便利な時代である今、それに甘えることなく研鑽を積み、心身を鍛えていく必要があるのだらうと感じさせられました。ひとまず、群馬まで自転車で帰れるよう、さらに遠い距離にも挑戦していこうと思うところです。合掌

忌中、喪中の考え方（仏教豆知識）

日常生活の中で出くわすこの二つの言葉は、本来は神道の死を穢れとする考え方が元となり、仏教にも影響したものとされます。地域の慣習として様々な形をとります。

忌中（きちゅう）は四十九日間を指し、四十九日後が忌明けとなります。遺族・親族が集まり四十九日法要をお勤めし、会食をして区切りとします。その間、地域の祭りや祝い事等への参加を控えるという慣習があります。死を穢れとすることや避けることなどで、様々な習慣、儀礼が生まれました。清め塩を使うこと、友引の日に葬儀を避ける、火葬場の行き帰りの道を替えること等枚挙にいとまがありません。

喪中（もちゅう）は喪に服す期間で一年の期間をいうようです。喪中はがきなどは良い例です。祝い事等の参加は特に制限は無いようです。

以上書きました内容は、神道から一般仏教へと慣例化され、今日に至っております。

浄土真宗は親鸞聖人が示されますように、死後仏となる教えですので、穢れの慣習は有りません。

「門徒もの知らず」と言う言葉が有りますが、正しくは「門徒もの忌み知らず」で忌中の習慣をもたないことから言われたようです。

（住職）

※編集後記※

一時は収まるかと思われた感染症もオミクロン株の拡大で「まん延防止等重点措置」が適用されました。私たちの命を守るやむを得ないことです。私たちはコロナの収束の見えない日々が続く中で不安と悩みを抱えています。阿弥陀さまはこのような私たち凡夫のためにご本願をたてられ、そのままの姿で救おうとはたらい下さっているのです。これからも、お念仏のおいわれを聞きつつ、お念仏の中で毎日を通してゆきたいと思っています。（瀬古規子）

◆ 行事予定 ◆ 令和4年 4月～ 令和4年 7月			
月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定
4月	20日	婦人会例会	
	29日	永代経法要	
5月	16日	ゴルフコンペ	
	20日	婦人会総会	
	未定	壮年会総会	
6月			14日 組仏婦連盟総会
	未定	婦人会例会	
7月	未定	壮年会例会	
	未定	婦人会例会	